



## OPRTプレスリリース

平成29年3月6日

### 平成28年度 第4回OPRTセミナー —マグロ資源の新たな管理方式の現状と将来—

(地域漁業管理機関で検討・採用されているMSE\*、HCR\*\*、MP\*\*\*など)

\*：管理戦略評価方式、\*\*：漁獲管理規則、\*\*\*：管理方式

(一社)責任あるまぐろ漁業推進機構(OPRT)は、下記によりセミナーを開催します。  
先着60名まで応募受付(締切3月24日)。申し込みは、OPRT(人見)までお願いいたします。(一般の方も受付。ただし、当日、OPRTの賛助会員へ加入登録をお願いいたします。年会費：個人千円、法人1万円)

#### 記

1. 日時：平成29年3月28日(火) 14:00~16:00
2. 場所：大日本水産会 大会議室(港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8階)
3. 趣旨：

かつお・まぐろ関連地域漁業管理機関の中には、科学小委員会からの資源評価結果を基に、委員会で諸状況を勘案して総許容漁獲量(TAC)を決定する従来の方式から、

- ① 予め決定された方式で、科学小委の資源評価(一定期間ごとに更新される)から、一定の算出方式によりTACを割出す方式(例：CCSBTのMP(管理方式)：2018-2020年にTACを2015-2017年から3,000トンを増加させることを2016年10月に決定)、
- ② 将来の資源評価がカツオ資源の悪化を示した場合、関連漁業の漁獲量を予め決定された方式で削減する措置(例：2016年5月にIOTCが決定したHCRs(漁獲管理規則)等の導入・実施をしているものができています。

また、WCPFCにおいても、本年12月の年次会合においてメバチを含む熱帯カツオマグロの保存管理措置採択するに当たり、このような方式を用いるべく検討がなされてきています。

つきましては、このような新たな動きについて、国際水産資源研究所の研究者から状況及び今後について説明を受けることといたします。

なお、この事項の多様性・複雑性を考慮して、本年4月以降、数回の勉強会を開催することとしており、概要は本セミナー当日にご案内致します。

#### 4. 演題・講師：

- (1) 漁獲戦略(Harvest Strategy)の概念とマグロ類RFMOでの議論  
国際水産資源研究所 くらまぐろ資源部くらまぐろ資源グループ  
主任研究員 境 磨 氏
- (2) 管理方式(MP)によるミナミマグロ資源の管理(事例紹介)  
同研究所 同部 温帯性まぐろグループ 主任研究員 高橋 紀夫 氏

(問合せ先) (一社)責任あるまぐろ漁業推進機構  
事務局長：田端 事業部長：人見  
TEL：03-3568-6388 FAX：3568-6389  
Eメール：maguro@oprt.or.jp